

石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会では、石山・芸術の森地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

石山・芸術の森地域 学校規模適正化 検討委員会ニュース

第3回検討委員会 について

11月11日（火）午後6時から、石山南小学校で第3回の検討委員会を開催し、前回検討委員会の補足や地域の皆さんから寄せられた意見の報告に加え、引き続き統合パターンについての検討を行いました。

前回検討委員会 の補足について

前回（第2回）の検討委員会で委員から寄せられた意見について、事務局から2件の補足説明がありました。

● 地域衰退への対応について

「地域衰退はその地域に暮らす子ども達にとって望ましくない。本当に子ども達のことを考えるなら、空き校舎の活用など地域の衰退を避ける提案も行うべき」とのご意見ですが、これについてはご指摘のとおりであり、札幌市としても、統合で学校の教育環境をより良くしていく一方で、空き校舎の活用などもしっかり検討していく必要があると考えています。ただし、空き校舎の場所などが決まっていない中では具体的な検討は難しく、その時期等は別途検討したいと考えています。

● 特認校に対する考え方について

「駒岡小などの特認校は児童数が100名以下であり、こういった学校を先に検討すべきではないか」とのご意見ですが、特認校では恵まれた自然環境を活かした自然教育や体力づくりといった特色のある教育を行っています。このため、児童も学年20名程しか募集しておらず、適正化の検討には馴染まない学校と考えています。

地域の皆さんから 寄せられた意見 (報告)

前回の検討委員会以降、地域の皆さんから寄せられた意見について事務局から4件の報告がありました。

- 「子ども中心」で考えるのは重要。一方で、子どもの未来は家族や地域の未来と一体で、学校が閉校になると、地域の過疎化に拍車がかかる。学校を拠点にして、地域に若い家族が移り住みたくするような未来志向の議論をしてほしい。地域ぐるみで子育てができる教育行政をお願いしたい。

(2014年9月 ファックス)

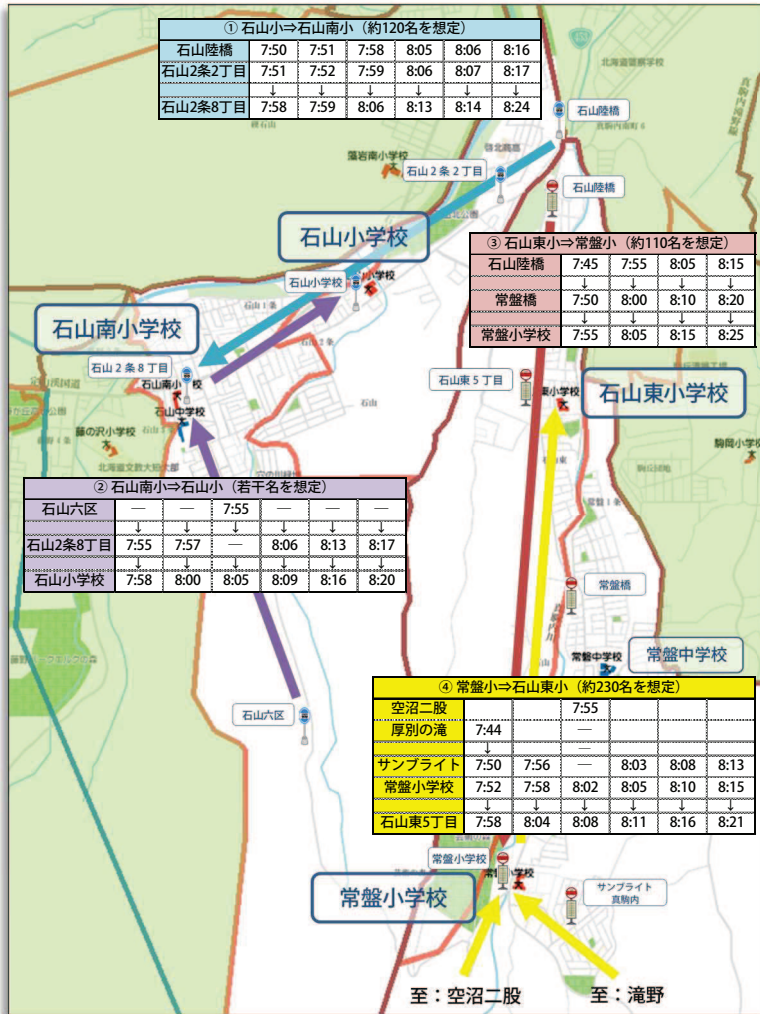
- 現状に不満がなく、当事者抜きで物事を決められている様を感じる。また、次世代の教育にはお金が掛かるものであり、合理化できるものではない。現保護者や就学予定の保護者など希望する者が誰でも話し合いの場に参加できるように配慮するほか、検討状況についても積極的に周知すべき。

(2014年10月 電子メール)

◆ 登校時間帯における路線バスの運行状況

登校時

※登校時間を概ね午前8時～8時半と想定



■ 石山小校区から石山南小に通う場合

- ・ 該当の時間帯にじょうてつバスが6便運行。
- ・ 乗車時間は最長の「石山陸橋」から約8分。
- ・ 対象児童は120名程。既存のバスに全員が乗車する事は困難で、スクール便で1～2便の増便が必要。

■ 石山南小校区から石山小に通う場合

- ・ 「石山六区」発のじょうてつバスは、該当の時間帯に7:55発の1便のみ。ただし、国道へ出れば一定の便数がある。
- ・ 乗車時間は最長の「石山六区」から約10分。
- ・ 対象児童は若干名であり、既存のバスに乗車も可能だが、時間変更等の検討は必要。

■ 石山東小校区から常盤小に通う場合

- ・ 該当の時間帯に中央バスが4便運行。
- ・ 乗車時間は最長の「石山陸橋」から約10分。
- ・ 対象児童は110名程。既存のバスに全員が乗車する事は困難で、スクール便で1～2便の増便が必要。

■ 常盤小校区から石山東小に通う場合

- ・ 該当の時間帯に中央バスが6便運行。
- ・ 乗車時間は最長の「空沼二股」「厚別の滝」からで約14分。「常盤小学校」からで約6分。
- ・ 対象児童は230名程。既存のバスに全員が乗車することは困難で、スクール便で4～5便の増便が必要。なお、真駒内に近づくほど非常に混雑する路線。

※ 下校時についても同様に、統合パターンに応じてスクール便の増便等を検討する必要があります。

委員から寄せられた意見など

◆ 質問

第3回検討委員会では、委員から以下のようなご意見・ご質問がありました。

- この検討委員会で「現状のまま」といった結論に至った場合、教育委員会としてはどのように対応するのか。

(事務局回答)

市民やPTA、学校関係者等からの意見提言に基づく「学校規模適正化の基本方針」により取組を進めていますが、この検討委員会で様々な検討を行った結果、最終的に統合は難しいとの結論に至れば、その理由等を踏まえて、教育委員会として総合的に判断して結論を出していきたいと考えています。

◆ 意見

- 常盤中付近に統合校を新設するパターンについて、土地の課題は、建築方法等を工夫することで対応の余地があるのではないかと。中学校敷地に小学校を併設し、隣接する広場にグラウンドを造成するなど、様々な方法が検討できるのではないかと。

- 通学路が長いことが一番のハードルである。その意味では、中間に新設するのが、最も通学負担を軽減できる。
- 経費的な課題もわかるが、既存の校舎を活用しても、増築や体育館の改修などが数億円単位で生じることが想定されることから、資金や土地の問題だけで、常盤小と石山東小の中間への新設を白紙に戻すのはやめてほしい。
- 常盤小と石山東小の中間に新設するのが子ども達にとってもっとも望ましいと感じる。新設が難しいようであれば、この地区での統合も難しいのではないか。
- 朝の通勤時間には渋滞もあり、道路の状況（渋滞の場所、方向など）はしっかり把握したうえで、対応を検討する必要がある。
- 特に国道 453 号線は、朝非常に混雑しているイメージがある。冬道になると特にその状況が顕著である。
- 道路の混雑などの課題もあるなかで、300 名を超える児童がバスに乗るパターンは非現実的ではないか。
- 現在、常盤 1 条やもなみ学園から常盤小にバス通学している児童がいるが、バス会社の協力もあり、さほど大きな遅延等はない。
- バスの乗車時間が概ね 10 分前後であれば、過度の負担とまでは言えないのではないか。
- 石山東小の全員が石山小に通うことは難しい。石山緑地の坂道を徒歩で通うよりも、バスで常盤小に通った方が早いケースもある。
- 現在、石山南小は石山中と隣接しており、中学校への円滑な進学という面でメリットがある。統合校を検討する際には、こういった部分も踏まえたうえで、より望ましい形を検討すべき。

第 4 回検討委員会 について

次回の第 4 回検討委員会は、平成 27 年 2 月 6 日（金）を予定しており、今回の追加パターン（常盤中付近に統合校を新設する案）を含め、引き続き統合パターンの検討を行います。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）

〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 2 丁目 S T V 北 2 条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E - mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>